|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価表の項目 | 配点 | 評価の視点 | 評価点 | 備考 |
| 1．患者に自分の立場を説明している | 5 | 自分の立場を明確に説明し、診察の承諾を得ているか・自分の所属部署と名前　1点・自分が診察することについてわかりやすく説明している　4点 |  |  |
| 2．問診の実施 | 10 | 患者にわかりやすく、コミュニケーション能力を駆使して次の事柄が聞き出せているか・全体のアセスメントとして、重要疾患の既往が聞けているか　1点・足潰瘍の発生からこれまでの治療経過、症状などが聞けているか　4点・糖尿病の関与を疑い、治療経過、症状、管理状況が聞けているか　3点・足潰瘍の発生に関連のある生活状況や創の処置などが　自律して行えそうか、情報が取れているか　2点 |  |  |
| 3．局所の診察の実施1) 触診2) 機器を使用しての診察 | 9 | 適切な手技で診察が行えているか・患者に承認を取ってから次の触診が行えているか足背動脈の触知・後脛骨動脈の触知・足や足趾、爪の変形の有無・足の知覚・足の温感　5点適切な手技で必要な検査が行えているか・ドップラーによる血流確認　1点・モノフィラメントによる神経検査　3点 |  |  |
| 4．創部の局所診察 | 9 | 適切な手技で創部の局所診察が行えているか・創の形状やサイズ、創の深さ、滲出液の有無　3点・創周囲の皮膚の色調や腫脹 3点・疼痛の有無　3点 |  |  |
| 5．必要な検査の選択 | 6  | 創傷の状態を評価するために次の検査が選択できているか・レントゲン検査　3点・血液検査　3点 |  |  |
| 6．必要な検査の説明（目的・得られる成果） | 6 | 検査が必要であることを説明できているか・レントゲン検査：局所の腫脹から、骨の状態を知る3点　・血液検査：局所の感染の有無、糖尿病のコントロール状態を知る　3点 |  |  |
| 7．患者に病状および今後の治療の説明 | 20 | 患者にわかりやすく、コミュニケーション能力を駆使して次の事柄が説明できているか・レントゲン検査の結果：シャルコーの可能性として局所の骨に異常があること　5点・血液検査の結果：感染を疑う炎症を示すCRP値上昇があること、血糖およびヘモグロビンＡ１Ｃの高値があり、糖尿病悪化が疑われること　5点・診察の結果、足の知覚がなく、そのために痛みがなく、創傷が悪化している可能性が高いこと　4点・局所の安静や糖尿病の治療の必要性があること　6点 |  |  |
| 8．報告書の記載1) 患者の身体所見を記載している2) 報告書に評価が記載されている3)報告書に提案事項が記載されている | 35 | 次の内容が記載されているか・身体所見(足の知覚や骨変形、局所所見)、既往歴、創傷の状　　態　7点・検査結果の評価　10点・糖尿病性足病変でシャルコー関節の骨折が疑われること　10点・治療提案として、糖尿病の治療、局所の安静等　8点 |  |  |
| 総合点 | 100 |  |  |  |